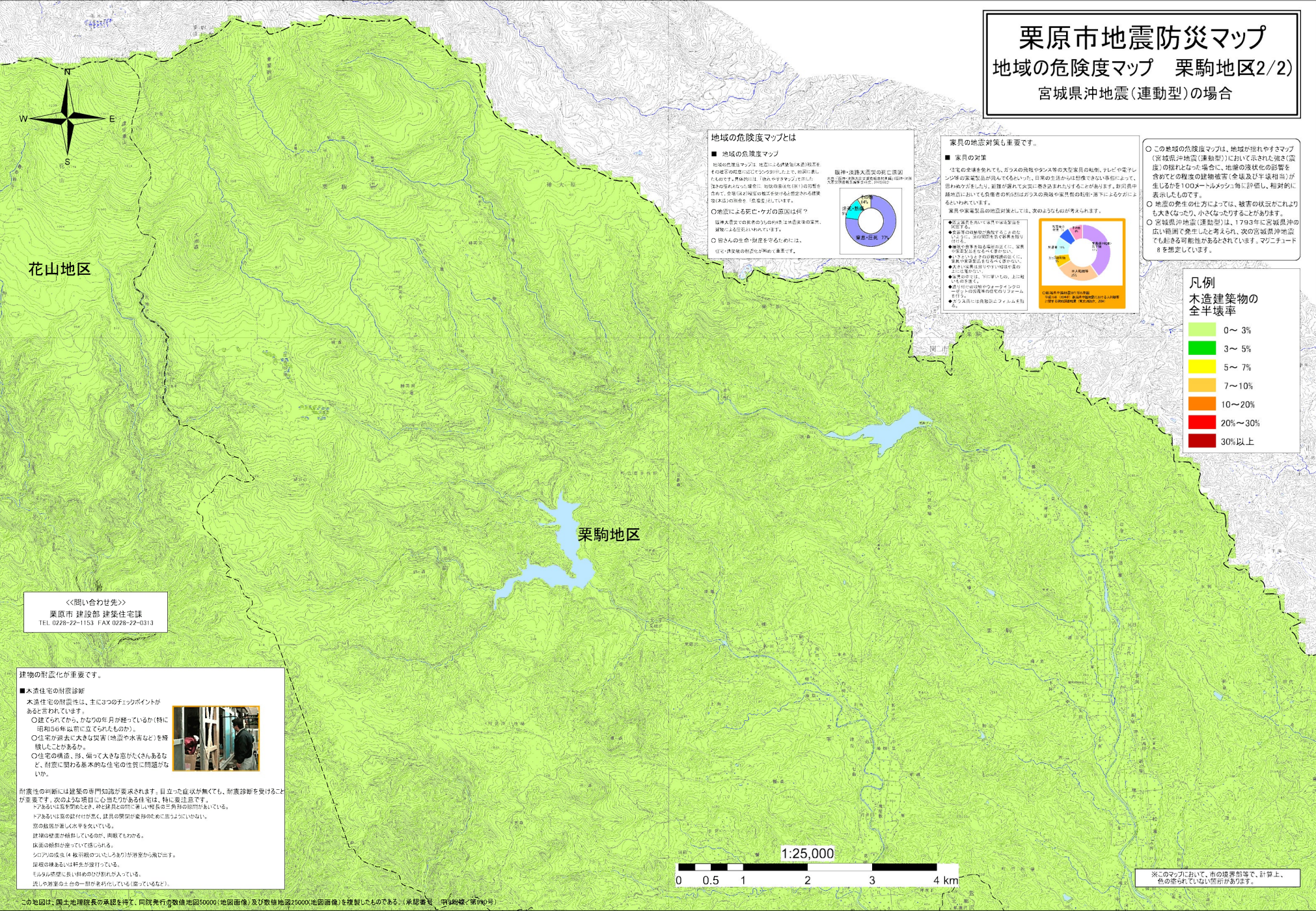


栗原市地震防災マップ

地域の危険度マップ 栗駒地区2/2)

宮城県沖地震(運動型)の場合



地域の危険度マップとは

■ 地域の危険度マップ
 地域の危険度マップは、地震による被害(人命・財産)を
 その被害の程度に応じてランク分けした上で、地図に表し
 たものです。詳細については、図解や解説マップをご覧ください。
 近年の被害が多くなった場合、地域の被害を減らすための施策を
 含めて、全県(県)単位で被害を減らすことを想定される建築
 関係者の対応を「危険度」で表示しています。

○ 地震による死亡・ケガの原因は何？
 阪神・淡路大震災の死者の約8割は地震発生後の家財、
 家具による被害が原因とされています。

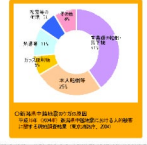
○ 個人への生命・財産を守るためのには、
 住宅・建築物の耐震性が最も重要です。



家具の対策も重要です。

■ 家具の対策
 住居の全棟を整えて、ガラスの鏡やタンス等の大型家具の転倒、テレビや電子レ
 シン等の家電製品が倒れてくること、日用品の落下から想定できない高さまで、
 思わぬケガを来したり、重傷が降りて火災に巻き込まれたりすることがあります。新居開中
 録地画においても、居住者の約3割はガラスの鏡や家具類の転倒・落下によるケガによ
 る被害を受けています。
 家具や家電製品の地震対策としては、次のようなものが考えられます。

● 固定器具を用いて固定する
 ● 固定器具の取付が適切かどうかの確認
 ● 固定器具の取付位置を適切にする
 ● 固定器具の取付位置を適切にする
 ● 固定器具の取付位置を適切にする
 ● 固定器具の取付位置を適切にする



○ この地域の危険度マップは、地域が揺れやすさマップ
 (宮城県沖地震(運動型))において示された強さ(震
 度の揺れと同等)場合に、地震の強弱化の影響を
 含めた程度の建物被害(全壊及び半壊相当)が
 生じるかを100メートルメッシュ毎に評価し、相対的に
 表示したものです。

○ 地震の発生の方によっては、被害の状況がこれより
 も大きくなったり、小さくなったりすることがあります。

○ 宮城県沖地震(運動型)は、1793年に宮城県沖の
 広い範囲で発生したと考えられ、次の宮城県沖地震
 でも大きな可能性が考えられています。マシニコード
 を想定しています。

凡例

木造建築物の全半壊率

0~3%
3~5%
5~7%
7~10%
10~20%
20~30%
30%以上

＜問い合わせ先＞
 栗原市 建設部 建築住宅課
 TEL 0228-22-1153 FAX 0228-22-0313

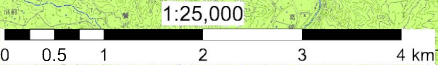
建物の耐震化が重要です。

■ 木造住宅の耐震診断
 木造住宅の耐震性は、主に3つのチェックポイントが
 あると言われています。

- 建てられてから、かなりの年月が経っているか(特に昭和56年以前に建てられたものか)。
- 住宅が過去に大きな災害(地震や水害など)を経験しているか。
- 住宅の構造、形、留って大きな窓がたくさんあるなど、耐震に関わる基本的な住宅の性質に問題がないか。

耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。目立った症状がなくても、耐震診断を受けることが重要です。次のような項目に心当たりがある住宅は、特に要注意です。

- トラス(トラス)の柱が太く、柱の間の間隔が不均等に思える。
- 窓の数が多く水平を欠いている。
- 建物の傾斜が傾斜しているが、肉眼でもわかる。
- 床面の傾斜が傾斜している。
- シロアリの被害(4枚羽根のついた土壌)が浴室から出てくる。
- 屋根の棟あいは軒先が歪んでいる。
- モルタルの壁に斜めひび割れが入っている。
- 土間や浴室の土台の一部が劣化している。(腐っているなど)。



※このマップにおいて、市の境界部等で、計算上、色の繋がっていない箇所があります。

この地図は、国土・地籍院長の承認を得て、同院発行の数値地図5000(地図画像)及び数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 甲第200号)